

全体目標

「全てのがん患者の苦痛を軽減しつつ、75歳未満のがんによる死亡者を20%減少させる」

個別目標

5年生存率の改善

主要がんについて数値目標の設定(早期がん、進行がん)

がんの予防

喫煙率減少の数値目標の設定(男性、女性、未成年者)

食生活等についても健康日本21と整合性のある数値目標の設定

がんの早期発見に関する目標

臓器別がん検診受診率の数値目標の設定

「乳がんマンモグラフィ検診受診率は死亡率低下につながる50%以上に設定。正確な受診率を把握するためには、一般診療(保険診療)で行われている検診の調査が必要」

放射線療法、化学療法 of 推進及び医療従事者の育成に関する目標

腫瘍内科医、放射線治療医の必要人数の数値目標の設定

「化学療法は手術可能がんを対象に、治療を目的とする術前・術後化学療法と手術不能進行がんや再発がんを対象に、症状緩和と延命を目的とした化学療法があり、外科医が行っているのが問題とされている。しかし、直ちに化学療法の全てに腫瘍内科医が関わることは困難であり、前者の一部は外科医を含めた臓器別の専門医が担当し、後者と化学療法が第一選択となるがん(血液がん等)は腫瘍内科医が担当する等の役割分担が必要である。化学療法を担当する医師の最低必要数は、がん連携拠点病院には1名以上の腫瘍内科医(日本腫瘍学会認定がん薬物療法専門医)と各臓器別に化学療法担当医(がん治療認定医、各学会専門医等)を配置できることを目標とする。」

診療ガイドラインの作成に関する目標

診療ガイドラインに基づいたクリニカルパスの整備とクリニカルパス実施率を数値目標に設定。

「診療ガイドラインは作成とともに、定期的な改訂(2年毎)が重要である。」

緩和ケアに関する目標

麻薬消費量の増加を数値目標に設定

医療機関の整備に関する目標

がん診療連携拠点病院によるがん患者カバー率を数値目標として設定。

がん医療に関する相談支援等及び情報提供に関する目標

がん診療連携拠点病院における相談支援センターの難形を示す。